

各位

全4ページ  
登録速報(2020-031)  
2019年11月20日  
クミアイ化学工業株式会社  
企画普及部普及課

## 登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。  
適用拡大登録年月日：2019年11月20日

### 記

#### 1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第23114号

名称：アトトリ1キロ粒剤

#### 2. 変更の内容

農薬登録申請書第7項中、以下を変更し、別紙1【変更後】のとおりとする。

・作物名「移植水稻」の適用雑草名「ヒエ、ミズガヤツリ、ウリカワ、ヒルシロ、セリ、モダカ、クダマ、スズイ、コキヤウ」を「ヒエ、多年生広葉雑草」に変更する。

使用時期「移植後20日(稲5葉期以降)～ヒエ4葉期 但し、収穫45日前まで」を「移植後14日(稲5葉期以降)～ヒエ4葉期 但し、収穫45日前まで」に変更する。

使用方法「湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布」を「湛水散布又は無人航空機による散布」に変更する。

#### 3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容 農薬登録申請書第8項中、11) ③を変更し、別紙2【変更後】のとおりとする。

##### 【変更前】

11) 無人ヘリコプターで散布する際は以下に注意すること。

- ①散布は使用機種の使用基準に従って実施する。
- ②専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。
- ③事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置のメタリング開度を調整する。

##### 【変更後】

11) 無人航空機で散布する際は以下に注意すること。

- ①散布は使用機種の使用基準に従って実施する。
- ②専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。
- ③事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置の開度を調整する。

別紙 1

【変更前】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ピリリスファンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	ノビエ ミスガヤツリ ウリカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ シスイ コウキヤガラ	移植後 20 日 (稲 5 葉期以降) ～ノビエ 4 葉期 但し、 収穫 45 日前まで	1kg/10a	1 回	湛水散布又は 無人ヘリコプター による散布	2 回以内
直播水稻	オモダカ クログワイ	稲 5 葉期～ 収穫 45 日前まで				

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ピリリスファンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	<u>ノビエ</u> <u>多年生広葉雑草</u>	移植後 14 日 (稲 5 葉期以降) ～ノビエ 4 葉期 但し、 収穫 45 日前まで	1kg/10a	1 回	<u>湛水散布又は</u> <u>無人航空機に</u> <u>よる散布</u>	2 回以内
直播水稻	オモダカ クログワイ	稲 5 葉期～ 収穫 45 日前まで				

## 別紙2

### 【変更後】

#### 8. 使用上の注意事項

- 1) 対象草種以外の雑草を防除するため、田植前後に使用する土壌処理除草剤との体系で使用する。
- 2) 本剤はノビエの4葉期までに有効なので、時期を失しないように散布すること。なお、生育期に入った雑草に効果があるが、雑草の生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ミズガヤツリは6葉期まで、ウリカワは4葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカは発生盛期から矢尻葉3葉期まで、クログワイ、シズイ、コウキヤガラは草丈30cm以下が本剤の散布適期である。
- 3) オモダカ、クログワイ、シズイ、コウキヤガラに有効な前処理剤との組み合わせで使用するにより、より高い効果が得られる。
- 4) 5葉期末満の稲に対しては薬害を生じるおそれがあるため、使用をさけること。
- 5) 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 6) 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、少なくとも散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 7) 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
  - ①砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）。
  - ②極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田。
- 8) 直播水稻に使用する場合は以下に注意すること。
  - ①稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
  - ②除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後散布すること。
- 9) 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- 10) 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 11) **無人航空機**で散布する際は以下に注意すること。
  - ①散布は使用機種の使用基準に従って実施する。
  - ②専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。
  - ③事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置の**開度**を調整する。
  - ④散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離して圃場内に散布する。
  - ⑤水源池、飲料用水等に飛散、流入しないように十分注意する。
- 12) 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。

- 13) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- 14) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上